

第2回赤穂未来創造委員会会議録

- 1 日 時 平成31年2月12日(火) 13:58～15:28
- 2 場 所 赤穂市役所 6階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委員
中村 剛会長、金沢 緑副会長、小川温子、堀 理江、矢野善章、寺田榮治、島田裕弘、目木敏明、大田秀美、川本哲也、岩崎由美子、大木善夫、山本真一、安田 哲、井上昭彦、元岡 明、内藤茂男、小寺康雄、福本俊弘、岩谷直樹、寺内まみ、勝原建夫
 - (2) 事務局
磯家市長公室長、山内企画広報課長、澁谷総合計画・戦略推進担当係長
- 4 次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 協議事項
 - ① 次期総合計画策定に向けての提言書(案)について
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 5 議事概要
 - (1) 開会
事務局 少し時間が早いですが、皆様お揃いになりましたので、ただいまから、第2回赤穂未来創造委員会を開催いたします。
委員の皆様には、大変ご多用の中、ご出席いただきましてありがとうございます。
まず、開会にあたりまして、報道関係の方をお願い申し上げます。写真撮影につきましては、この後、会議の議事に入るまでとさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。
それでは、会議の開催にあたりまして、中村会長からごあいさつをお願いいたします。

(2) 会長あいさつ

会長 皆様、こんにちは。中村でございます。

この未来創造委員会ですが、8月から立ち上がりまして今日に至るまで、それぞれ2つの部会に分かれ、それぞれの部会で扱うテーマについて、これからの赤穂市をどうすればいいのかということで、皆様のご意見を頂戴してまいりました。

そのご意見を、部会長、事務局の方で、事前に配布させていただきましたが、この「次期総合計画策定に向けての提言書」としてまとめさせていただいております。

そして、本日の会議の趣旨ですが、今日が最後の会議になりますので、これまで、それぞれの部会で皆様から提出された意見がこの提言書に適切に反映されているかというところを主たる論点として、この後事務局からこの提言書について説明がありますが、その説明を受けて、「このところが違うのではないか。」、「具体にはこのようなニュアンスで言ったのだが。」あるいは「この点が入っていないのではないか。」といったことを中心に色々のご意見をいただきたいと思います。

それではどうぞよろしく願いいたします。

事務局 ありがとうございます。ここからの進行につきましては、中村会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

(3) 協議事項

① 次期総合計画策定に向けての提言書（案）について

会長 それでは、会議を進めさせていただきます。円滑な議事進行に、皆様のご協力をお願いいたします。

はじめに、委員の出席状況について、事務局から報告をお願いします。

事務局 はい。本日、委員22名、全員出席でございます。

会長 事務局の報告通り、半数以上の委員のご出席をいただいておりますので、本日の会議は成立しております。

会議は、お手元の会議次第にしたがいまして進めてまいりますので、よろしくお願いします。

それでは、次第3の、協議事項に入らせていただきます。

次期総合計画策定に向けての提言書（案）について、を議題とします。提言書の案につきましては、委員の皆さんに事前に事務局から配布しております。これにつきまして、事務局より説明をお願いします。

それでは、ご説明申し上げます。

先ほどの会長のごあいさつにもございましたように、昨年8月以来、委員の皆様からいただいたご提案を2つの部会において、色々とご議論いただき、第2回の各部会におきまして、大きなくくりで意見集約を図っていただきました。

それらを踏まえまして、両部会長と協議の上、お手元の提言書案にまとめさせていただき、事前にお配りさせていただいたところです。

まず、提言書の構成についてですが、1ページをご覧ください。冒頭に、「提言にあたって」として、次期総合計画策定に際して、特に人口減少という経験したことのない社会変化が進んでいく中で、赤穂市の現状と将来への動向を見据えたまちづくりへの提言を行う旨、未来創造委員会の目的を明記しております。

2ページから9ページにかけては、委員会の中で皆様にもお示しした、赤穂市の人口動態と将来人口について、カラーのグラフを用いたデータを記載しております。まずは、赤穂市の人口減少がどのように進むのか、市民の皆様が将来を想像していただけるよう、提言の前提となる人口減少を分かりやすい形でまとめております。

次に、10ページをご覧ください。人口減少が進むと、どのような課題や市民生活への変化が顕在化するのか記載しております。

それらの社会変化や課題を見据え、11ページにはまちづくりへの提言として、「①安心して出産し、子育てしやすい体制づくり」、「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」、「③暮らしの安全と安心を守る」、「④子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」、「⑤産業の担い手づくりと活性化」の5つの骨子としてまとめております。これまでの両部会での議論を踏まえ、柱建てを行ったものです。

12ページから15ページには、それぞれの提言の骨子に沿って、具体的に提言内容を記載しております。

まず、12ページをご覧ください。提言の「①安心して出産し、子育てしやすい体制づくり」については、市民病院産婦人科における分娩の受け入れ再開、出産から子育てまで切れ目のない支援、出会い、結婚の支援の充実についてまとめました。

13ページ、提言の「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」については、介護予防等の充実、これまでの経験と知恵を地域で生かす、生涯スポーツの健康づくりや地域における文化芸術活動の振興としてまとめました。

次に14ページにかけての、提言の「③暮らしの安全と安心を守る」については、市民の防災意識の向上を図る、環境問題への適切な対応として、委員の皆様からの関心の高かった産業廃棄物処分場問題についても触れるようにしております。

提言の「④子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」については、子どもが学ぶ機会への多様な関わり、学びなおし、リカレント教育の充実についてまとめました。

15ページには、提言の「⑤産業の担い手づくりと活性化」についてまとめております。

最後に、「おわりに」として、この提言に込められた最も大事なこととして、市民の皆様が人口減少という現実を直視し、これからの自分の身の回りにどのような変化が起きるのか、将来を想像してもらいたいという趣旨を述べさせていただき、まとめとしました。

17、18ページには、未来創造委員会の委員名簿とこれまでの経過を簡潔にまとめて記載しております。

以上で説明を終わります。

会長

ありがとうございました。

今説明がありました提言書の内容につきまして、ご意見等お願いいたします。

委員

最終回ということですので、私見を申し上げたいと思います。項目の内容につきましては、それぞれの部会で議論されていますので言及はいたしません、表現のテクニカルな部分について、いくつか意見を申し上げたいと思います。

15ページをご覧ください。5番のまちづくりへの提言についてですが、あげられている項目のプライオリティーについてですが、⑤の「産業の担い手づくりと活性化」の順位が少し低いのではないのでしょうか。また、ほかの項目は、内訳項目があるのに対して、この項目だけが何もありません。付け足し感が否めないような状態ですので、このところに、(i)(ii)というような内訳項目を表示していただけたらと思います。「人口減少により顕著となる社会環境の変化として、地域経済の縮小化が挙げられます。」から、真ん中あたりの、「現在、中学2年生を対象に実施している「トライやるウィーク」の受入先としての地元事業所の業種等の拡充やPR等さらなる取り組みが求められます。」までを(i)とし、「人材の確保」と小見出しをつけていただいたらどうか。「次に、まちの活力を維持していくためには、」以降のところを(ii)として「広域的な課題への取り組み」と

小見出しをつけてまとめていただいて、11ページに、内訳番号、見出し等を付け加えていただき、形式的なことかも知れませんが、このように整えていただければ良いと思います。

先ほど「柱建て」と表現をされていましたが、これもプライオリティですが、総合計画の基本計画にある項目との整合性をある程度踏まえるべきではないかと考えます。そうしますと、いきなり①に「安心して出産し、子育てしやすい体制づくり」とするは唐突感があると思いますので、「暮らしの安全と安心を守る」を①にさせていただき、「出産」、「健康寿命」の順番を下げ、「産業の担い手づくりと活性化」を④に、「子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」を⑤としてはどうかと考えます。

したがいまして、産業については、前のグラフのページには事業所数や生産的年齢人口の推移のデータがございませんので、このデータをできれば追加していただければと思います。

また、「目指すべきまちづくりの目標」のところですが、「人口が減少しても」という表現がいかにも直接的で、現実の問題ではそうかも知れませんが、人口減少が予言と感ずるので、人口減少の防止、人口増加に向けて努力をしているという意味を込めて言うのであれば、例えば、「人口減少傾向を踏まえた活力のある赤穂のまちづくり」というキャッチフレーズの方がよりソフトで、収まりが良いものになるのではないかと思います。

会長 ありがとうございます。今4点ご指摘をいただきました。それぞれ確認した上で、これらのご意見について他の委員の皆様のご意見をいただきたいと思います。

1点目は、15ページをご覧ください。「⑤産業の担い手づくりと活性化」とあります。この内容だけ項目が立っていないので「(i) 人材の確保」、「(ii) 広域的な課題への取り組み」という項目を立ててはどうかということでした。

4点ありまして、1つ1つご意見を確認したいと思います。新たな内容ということではなく、形式的な面ではありますが、項目を立てることについていかがでしょうか。特に反対はありませんか。

委員一同 (意見、異議なし)

会長 では、他の柱建てと合わせるとということと、項目を立てることで何が求められているかが表に出るという意味からも、項目を立てるように修正させていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

委員一同 (意見、異議なし)

会長

次に2点目ですが、優先順位という観点から、13ページの「③暮らしの安全と安心を守る」、を①、12ページの「①安心して出産し、子育てしやすい体制づくり」、を②、13ページの「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」、を③、15ページの「⑤産業の担い手づくりと活性化」、を④、14ページの「④子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」、を⑤、としてはどうかというご意見でした。

そして、赤穂市の基本計画が、どのような項目で並んでいるかという視点から、その項目と、ある程度整合性がある方が良いのではないかと、ということ。優先順位と言っても、最初に持ってくるのは何かと言ったときに、「暮らしの安全安心」というようなところではないかと。今の①は、基本計画の項目という安全安心の中のより具体的な項目でありますし、また、より抽象度の高いものは①とし、より具体的なものは②とするといった、基本計画との整合性だけでなく、優先順位という観点からもご提案をいただきましたが、このご意見についていかがでしょうか。

委員

ただ今の意見でございしますが、①が優先順位が一番だとは思いません。⑤だから一番低いということでもないと思います。総合計画との整合性の関係で、暮らしの安全と安心を守るが一番で、教育が最後になっていますので、そのような順番でということですが、これはあくまで、我々からのまちづくりの提言ということですので、今の総合計画との整合という部分では特に問題はないのではないかと、それに合わせる必要はないのではないかと思います。

逆に事務局にお聞きします。①から③は、福祉・環境・安心部会の関係が主となっており、それ以降はもう1つの部会の関係と、特段そういう意味で優先順位を決めたとは思いませんが、その点いかがですか。

事務局

そのように優先順位を決めたものではございません。

会長

ありがとうございます。今のご意見は、おそらく基本計画に関してもそうだと思いますが、5つ並んでいるものは、市が取り組まなければならない優先順位で並んでいるわけではなく、市民生活を考えたときに、安心、福祉あるいは防災という領域もあれば、教育という領域もあり、産業という領域もあります。私たちの社会生活は、そのような複数のものから成り立っていて、必ずしもどれが優先的ということではない、という観点もあるかと思います。そのようなことを踏まえると、このような並びでも良いのではないかと、というようなご意見で

した。

ということでございますが、今のままか、それとも最初にご意見をいただいたように順番を変えるかについてご意見をいただきたいと思えます。

あるいは、事務局から並びに関して補足説明はありますか。

事務局 特にこの並びが、施策のプライオリティーとは考えてはおりません。

また、現行の総合計画の並びに合わさなければならないというわけではないと考えております。逆に言えば、その点も含めて委員のご意見を伺えればと思えます。

会長 委員の皆さまのご意見ということですが、いかがでしょうか。

委員 優先順位は、1つの重要度という観点から言いますと、それぞれ同じような重要性があるとは思いますが、しかし、暮らし向きだけではなく、もう少し産業の部分に焦点をあて、目が行くように上の方に位置付けていただくのはどうかということです。また、会長もおっしゃったように暮らしの安全と安心を守ることについては、全体を包含する話になりますので、最初にそれを持って来て、次に具体的な項目を挙げると収まりが良いと思えます。

もう1つ、基本計画との並べ方で、順番が違うのはどうかと個人的には思えますので、整合性についても頭の片隅に置いておいた方が良いでしょう。

会長 いかがでしょうか。

委員 このままでも良いし、暮らしの安全安心の部分については、幅広く皆さんに関心がありますので、私も最初に持って来て、特に順番に関係なければそのようにされたら良いかと思えます。

また、ここであまり時間を使うのもいけませんので。

委員 この提言にあたって、人口減少社会への懸念があるわけで、それに対応したまちづくりということから考えると、やはり、安心して出産し、子育てしやすい体制づくりを作ること、合計特殊出生率をいかに高めていくかということ、そういった提言も必要ではないかと思えます。「人口が減少しても活力を維持できるまち」と、まとめがありますが、私はむしろ「人口減少をストップさせて安全安心なまちづくり」と前向きな提言が必要だと思っています。そういう意味では、やはり出産を奨励するような提言がトップに来て良いと思えます。

会長 ありがとうございます。この後、4つ目の論点として人口減少をどのように捉えるかの議論になりますが、今のご意見は、人口減少とい

う共通の課題に対しては、今の「①安心して出産し、子育てしやすい体制づくり」が一番対応する項目なので、優先順位という観点からもここを1つ目におくことは不自然ではないというご意見で、むしろ、これが来るべきだとも考えることができます。様々な論点があり、ここで多数決をとって、ここで決めようとは思わないので、いろいろなご意見を聞いて最終的に決めたいと思いますが、他にご意見はございませんか。

委員 先ほどの順番の件ですが、恐らく11ページのまちづくりへの提言にいきなり5つ並んでいることで、違和感があるのだと思います。この前に、まちづくりへの提言と題して、ある程度の課題があり、このようなまちづくりをしていきますという文章を入れると、この順番をしっかり受け入れることができる可能性があると思います。

「人口が減少しても」という箇所は、私も引っかけたところです。行政として今後何をしていくか、市民の豊かな暮らしを支える環境整備は行政ができることであると思いますが、初めに、5つを受けた課題があり、このようなことをしていきます、このような赤穂を実現していきますというものが最初にあって①から⑤とする。構成としては、最後に目標が出てきていますが、目標は上に掲げるべきだと思います。そうすると、順番を受け入れやすくなるのではないのでしょうか。

会長 順番の問題というより、なぜこの順番なのか、読み手が分かるような文章か何かが冒頭にあれば、その冒頭に基づいて並んでいるとわかるということなので、総合して考えると、どの順番になるかは冒頭に置かれる文章にかかっている。人口減少に対して、どうこうしなければならぬという形の文章が冒頭に来るのであれば、当然、今の①が冒頭に来るだろうということで、冒頭に、なぜこのような並びなのか分かることをまとめていただきたい、ということはこの委員会の意見としてよろしいでしょうか。

委員一同 (異議なし)

会長 では、そのように冒頭で説明をつけて、その説明に見合った順番に並べ変えさせていただきたいと思います。

次はデータの話です。提言書の1つの特徴だと思いますが、今の赤穂の現実はこのことですよということを、資料で示すことは大きな意味があります。その資料の中に、事業所の推移と生産年齢人口の推移をここに入れた方が良いのではないかというご意見でした。事務局に伺います。このような資料はありますか。

事務局 データ自体はあります。

会長 データを入れることに対しての不都合など、事務局から何かありますか。

事務局 生産年齢人口につきましては、赤穂市の人口減少の動向というカテゴリーですので、特段この中に入れることは、違和感はありませんが、事業所数の推移につきましては、いささか性質が違ってまいります。しかしながら、委員のご意見もごもっともでございますので、例えば、産業の担い手づくりと活性化の文章の中で、そういった推移が分かるような傾向に触れるなど、何らかの対応は可能かと思えます。

会長 生産年齢の推移は、同じ類のデータということで加えていただき、事業所数に関しては、それを示すふさわしい場所で表現するという追加をしたいと思えます。

それから、大きな論点になると思えますが、この提言書の頭のところに標記として、「人口が減少しても」と書いてあります。さりげなく書いていますが、恐らくかなり本質的な議論になると思えます。この会議の時間もありますし、他の委員の方のご意見もあると思えますので、これにあまり長い時間を取るわけにはいきませんが、大切な点なのでご意見をいただきたいと思えます。先ほどのご意見では、「人口が減少しても」という表現は、減少することが前提だと読めてしまうので、検討した方が良いのではないかというご意見でした。大きく分けると考え方は2つあると思えます。1つは、人口の減少を食い止めましょうという姿勢ですね。「人口の減少は止めましょう。むしろ増やしましょう。」ということで今後の赤穂を考えていくということが1つ。もう1つは、当たり前ですが、赤穂市だけでなく人口は減っています。人口が減っているの、その減っている人口に見合った形で赤穂を作っていく。これは考え方としては人口を減らさないようにするのではなく、人口が減ったら減ったに見合うまちづくりをしていきましょうという考え方です。これはかなり根本的な問題になるので、この点についてご意見を頂戴したいと思えます。

委員 せっかくの提言ですので、市民に危機感を持っていただけたらどうかと。今、赤穂は住みよいまちで、近畿圏で何位などと出ていて、みんなが良いところを享受しているわけですが、将来は不安です。このまちづくりの提言においても、市民病院産婦人科における分娩受入再開は市民の力ではなかなか難しいかも知れませんが、後のことについては、行政には援助してもらえけれども、市民を中心としてできることだと思えます。いかに市民が協力し、いろいろなことをするか、それを手伝うのが行政です。

人口減少は、当たり前のもので、実際問題、人口が増えるのは難しいと思いますので、危機感を持っていただく提言という形のもので、人口が減少しても活力のある赤穂市を作るのだと。よく夕張市の話が出ています。市民病院も無くなったけれども、医療費が減っています。様々なことを行政や市民の力で行い、住みよいまちに変えていっています。様々なことについて、これからの市民は行政に甘えていたりしてはいけないと思います。今後もっといろいろな公共事業にお金も掛かると思います。今、私たちが享受している良いところを次世代に持って行こうとするならば、今お金をどんどん出し、市民がどんどん協力してやっていくという点から言うと、この「人口が減少しても」という表現は非常に良いことだと思います。

会長 ありがとうございます。

委員 私も10年先を考えると、この題目が良いのではないかと思います。先ほどの意見にあったように、行政に頼るのではなく、民間にも良いものがたくさんあるので、そのような流れが生まれたらと思います。

会長 ありがとうございます。いろいろなご意見を聞いて、最終的に取りまとめたいと思います。繰り返しますが、1つは、人口の維持に焦点をあてる。もう1つは、人口が減ることは致し方ないので、減っていく中で、いかに赤穂を活性化できるか。

そして、今のお二人の委員から出ている意見は、市民の力です。どうしても戦後、公共的な事柄を行政がしていたので、みんなで取り組まなければならない市民の公共性のようなことを、市民がやらないで、行政がやって来ました。そのようなことは、ほぼほぼ限界なので、人口が減ったら減ったで、それに見合う市民の活力があるという形にした方が良いのではないかと、というある意味、非常にこの委員会の一番根幹のテーマになっていると思いますが、この点いかがでしょうか。

委員 「人口が減少しても」という表現は、人口が減少しても、みんなで頑張るということがとても伝わってきました。短い文章ですが、人口減少を踏まえて、人口が減少してもみんなで頑張るという意味で良いと思います。

会長 ありがとうございます。このことは、重要な論点かと思います。むしろ、この中の文章のまとめで、今出たような意見は、文章の中にとっても大事なメッセージとして盛り込むべき内容になっていると思います。人口の維持の方で、頑張ってくださいというような提言をする

のか、あるいは、どうしてもそれはやむを得ないけれども、その中でも活力のあるまちにしてくださいという提言書にするのか、というところはとても大きいと思いますが、ご意見はいかがでしょうか。

委員

人口が減少することは、統計の数字の中で出ています。6ページの出生の状況のところ、0.7の数値が要するに二代続くと人口的には半分になると予想されるのであれば、10ページに記載されていますが、行政サービスの維持が困難になることは、はっきりしています。当然、税金も減ってくるので、そのようなことから、人口が減少しても活力のあるまちづくりをするためにはどうしていくのかということを見ると、選択と集中のようなことをどうしてもしなければならぬだろうと思います。そのことが提言書の中に無いので、どうかと思いました。

会長

ありがとうございます。人口を維持するのか、あるいは、人口が減少しても活力のあるとするのかということでは、乱暴ですが、二者択一では後者の立場である必要があるだろうという意見を聞かせていただきました。

それに加えて、人口が減少するというような、でも活力があるといったときは、選択と集中ということが必要であると。先ほどのプライオリティーの話にも関係しますが、行政と市民について、もっと市民の人が頑張るといような分野もありますが、行政が行うべきことには、財源が限られていることもあり、ある程度は選択と集中で行わなければなりません。ですので、提言書におきまして、全体のトーンとしては、人口が減少しても活力があるように、市民の皆さんも共に頑張っていきましょうと書きつつ、そのような中でも、この分野に関しては行政もより力を入れて、と書く必要があると思います。

いろいろとご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。やはり人口の減少を食い止めなければならないという意見もあると思います。

委員

暮らしというものは、労働の対価として生活をしているということです。ですので、産業面で申し上げますが、赤穂の場合は瀬戸内海岸線の中でも大きな立地企業が多くあります。そのような企業に頑張らせていただいていることで非常に恩恵を受けています。ただ、この20年間で生産性を上げないといけないといったことで、いろいろな統廃合がありました。

これは首長が考えることだと思いますが、実際に人口減になるということは、全体の方向性であり、都市と地方の格差もありますが、赤

穂としては、そのような中、そして税収も減る中で、都市計画、過疎地の関係からしても、いろいろなものがきつくなります。

そのような中で何か具体的なことをするであれば、私は立地企業を引っ張って来ることが大事だと思います。今の企業が、外に出られないことも大きな問題ではないかと。結論として、私が思うのは、何とか人口を減らさない、これは労働の確保もありますが、特に働くことができる方々の確保が大事だということです。減っていくだろうという統計上の話ではありますが、対応をしていかなければならないと思います。もっと食い止めようと、「人口減少となるのだ」ではなく、「止めよう」という意思を住民の方にお伝えすることも大事ではないかと思えます。

委員

私も、人口が減少しても、というより、先ほどおっしゃったように、抑制する方が良いのではないかと思います。提言の中にも、出会い、結婚の支援の充実と、止めようとする内容も盛り込まれていますので、もちろん、主役は市民で、行政は背中を押していただくというところは何の疑問もございませんが、人口減少を抑制するという提言もしているので、「減少しても」というよりは、「何とかしようじゃないか」という言い方が良いのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。恐らく、この人口が減少してもということを半ば前提に、これをまとめるということは、言い換えると、だから市民の皆さん、もっと力をお貸してください、自分たちのまちは自分たちでというようなメッセージ性もあるかと思いますが、共通して出ている意見としては、行政もするけれど、市民もすると、これに関しては誰も異論が無いわけです。その部分はその部分でしっかりと謳い、人口減少に関しては、提言書としてはもう少し中立的な観点で、委員の皆さんの中でも、人口減少しても、という意見と、実際に人口が減ったとしても、提言書としてはそこを食い止めようとする取り組み、意思を盛り込んだ方が良いでしょうという意見も多く見られました。今言ったことは、必ずしも、どちらかしか成り立たないということではないかと思えますので、こちらのまとめ方としては2点、1つは、市民の活力をどのように引き出すか、というようなことを文言として入れていただく、市民の活力、もっと皆さんが自分たちのまちな問題を自分たちでというようなことを、どこかで文言として盛り込んでいただき、それともう1つ、委員会としては「人口は減少してしまうのか」と感じてしまうニュアンスにはしないで提言したいと思えますが、それでよろしいでしょうか。

委員 確かに議論が分かれています。今、そのような意味では、提言で目指すべきまちづくりの目標を掲げなければならないのであれば、本当ならば、最初の委員会で人口の減少を止めるのか、人口が減少しても活力のあるまちづくりにするのかの議論をし、それによって、提言が変わってきたと思います。

確かに、出会い、結婚の支援の充実では謳っていますが、そのような意味では、この提言では、人口を抑える、歯止めをかけるようなことは、「産業の担い手づくりと活性化」について提言にはなっていません。ということであれば、これから議論するならば良いですが、最終の議論になりますので、まちづくりの目標をこのような形では挙げずに、11ページの項目の上に文章をまとめると言われましたように、その中に「人口が減っても」と目標ではなくさりげなく、そのようなニュアンスを入れなければ、なかなかまとまらないのではないかと思います。

会長 今のご意見は、これまでの議論でまとめたものが事実としてあります。このまとめたものは、積極的に人口減少を食い止めるというようなものが並んでいるのであれば、人口減少を抑えるような文言を書くことはできますが、今まとまっているものは、そのようなものもありますが、そここのところを中心に組み立てた議論ではありません。そういう意味でいうと、そこを焦点化しない形で、それぞれの部会で話し合った内容を振り返ってみると、この内容は、表現として使うかどうかはともかくとして、人口がある程度減少しても活力がある、そこで暮らしやすい、というようなものを提言している、まとめているということを見ると、その内容に見合った形の表記の方が望ましいだろうというご意見をいただきました。

この最終の会議で新たな意見が出ました。それ自体は、悪いことではありませんが、どうしても会議の性質上、これまでの流れで一定の程度制約としてあります。これまで話をしてきたことの延長の中で、私たちは、これをどうまとめ、表現することができるか、ということがありますので、先ほどのお話にあったように、この内容にある程度見合うような表現をさせていただかざるを得ないかなと思いますが、いかがでしょうか。

そうすると、具体的に、「人口が減少しても」をどうするのか、ということにもなりますが

委員 私は、「人口が減少しても」の表現よりも、中身の方が問題だと思います。実際に人口が減っていくのは現役世代であり、高齢者はます

ます増えていきます。赤穂市は非常に暮らしやすいということで、水道代が一番安い、気候が温暖で暮らしやすいところなので、例えば県北の方からや、ある程度お年を召された方が定住を希望された際に、たとえば赤穂に65歳以上の方が希望されたら無条件で定住できるようになっているのでしょうか。たとえば、生活保護を受けている方が定住を希望されて、赤穂に無条件に住むことができるのでしょうか。

会長 今のご質問に対して、事務局はいかがですか。

事務局 特にそのような条件はございません。

委員 歯止めという条件はありませんよね。例えば、日本人がオーストラリアに移住するのであれば、その人の資産状況など個人の私的な面が問題視されます。例えば、東北の方から赤穂市は温暖で住みやすいからと赤穂に定住を希望され、生産年齢のピークを過ぎている方が希望されてもウェルカムなのでしょうか。

会長 事務局は回答できますか。

事務局 はい。ウェルカムかどうかは別として、妨げる要因はありません。

委員 極端に言えば、後期高齢者が定住を希望されてもウェルカムですか。

事務局 はい。赤穂市は、リタイヤしても住みやすいまちという一面もございます。

委員 私は、何か歯止めがあると思っていました。

会長 なかなか難しいです。多様な意見がございますが、どうしてもこれまでの議論で提言した内容に見合ったフレーズで表記しなければ整合性がとれませんので、この「人口が減少しても」という言い方は、もう少し弱く表現することになるかも知れませんが、基本的には、「人口は減少する。しかし、活力のあるまちができるように」という形で提言書をまとめることになるかと思いますが、よろしいでしょうか。

委員 事務局に提案ですが、「人口減少」の中身の問題だと思います。「少子高齢化」という構造があると思うので、単純に「人口減少」ではなく、この「少子高齢化」ということが自治の課題である部分が大いだと思います。産業の担い手不足、人材不足などがありますので、この「人口減少」で片づけないで欲しいです。「少子高齢化」というものがあるということです。ネガティブなイメージがあるので、皆さんは引っ掛かると思います。私が感じたことは、この言葉で片づけない方がいいかなということです。

会長 その通りですね。どうしてもネガティブにならないような表現で、

且つ、何が問題なのかということです。何が問題なのかということが、サブタイトルに盛り込めるように修正して欲しいと、委員会の意見としてあります。今その点について具体的には言えませんし、このような価値に関するものは数学と違い一つに収れんしません。そのような中で多様な意見が出て、その多様な意見をいかに反映し、まとめるかという作業を今後しなければなりませんので、どうしても1つの形に収れんしませんが、単に「人口が減少しても」とネガティブにならない、しかし、物事の本質を、つまり「人口減少」のこと、あるいは、「少子高齢化」ということに対応できるとわかるようなサブタイトルに書き換えるということを、この後、部会長と事務局でそのような作業をさせていただきたいと思います。

多様な意見をいただき、ありがとうございます。この内容に関して、いろいろなご意見を伺い、修正しなければならないことが明らかになりましたが、他はいかがでしょうか。

委員

10ページの「4人口減少により顕著となる社会環境の変化と課題」についてです。6ページの出生の状況で、その状況が減少しているというグラフがあります。そのようなことが、10ページの4の課題のところに記載がありません。子どもが減少しているところが課題だと思いますが、11ページの「5まちづくりのへの提言」では、子どもを増やしましょうというような、子育てしやすい体制づくり、出産などについての記載がありますが、10ページの課題のところでは触れられていないと思いました。

会長

整合性の問題ですよ。基本、今日すべきことは整合性を整えることですが、提言するということは、課題があるから提言するわけです。最初の統計データのもの、課題、課題を踏まえた提言ということについて、もっと整合性があるようにと。

具体的には、子育てについて、課題では見えないのに、11ページでは子育てについて出ています。何をしなければならないのかというと、10ページの課題のところ、子育てのほか、この後に出ている提言に対応するような観点からの課題の見直し、今のは一例で、他にもあると思います。全部網羅できるかどうかはともかく、主だったところに関しては、課題になれば整合性がとれませんよね。そのようなご意見です。これに関しては、異論は無いかと思いますので、この後、最終の仕上げで、提言と課題がある程度対応するように書き換えさせていただきたいと思います。これに関してはその通りです。ありがとうございます。他にご意見はいかがでしょうか。

委員 11ページの「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」に関してです。「(iii) 生涯スポーツの健康づくりや地域における文化芸術活動の振興」の項目に関しては、「④子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」に生涯学習や芸術振興について話題が出ていましたので、スポーツ振興や芸術振興は、高齢者が活躍できる場を作るわけではなく、生まれてから死ぬまでの生涯学習の観点からの項目で扱った方が、幅広く対象を広げることができるのではないかと思います。

また、13、14ページの「(i) 市民の防災意識の向上を図る」については、自主防災や地域防災の観点からの提言になると思いますが、地域の連帯が希薄する中で自主の防災、自己の防災が重要だという部分と、やはり地域が連携して周りの人と共有しながらの防災意識ということを謳うべきではないかと思います。地域としての防災ですね。そして、最後の行の監視カメラの増設など、かなりテクニカルなことを提言の中に入れるのはどうかなと感じました。

会長 ありがとうございます。今、2点のご意見をいただきました。1点目は、11ページです。言葉とは、ある1つの事柄が言葉で表現されて、こちらの領域にも当然関係するし、こちらの領域にも関係する、と跨ぐものが出てきます。そのときに、その事柄は、どちらの領域の方がウエイトとして高いかを考えたときに、この11ページの②の「(iii) 生涯スポーツの健康づくりや地域における文化芸術活動の振興」というのは、④の方が良いのではないかというご意見でした。

副会長 ありがとうございます。地域における文化芸術活動の振興は、私たち教育・文化・経済部会でも話し合いました。どちらに入れていただいても良いと思います。先ほどプライオリティーの話がありましたが、すべてのことに順番ということではなく、重みづけるのではなく、提言の中身がどこに向かっていくのかがはっきりしていれば、それで良いと思うので、どちらに入っても良いです。むしろ教育の部分でも良いのかなと思います。

委員 先ほど副会長がおっしゃったように、どちらの項目に入っても良いと思います。生涯にわたって、スポーツに親しむことができる環境は、赤穂市は施設面では非常に充実しています。ソフト面の充実がこれから大事だと思います。

委員 13ページの「(iii) 生涯スポーツの健康づくりや地域における文化芸術活動の振興」は、「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」の中に、いわゆる高齢者対象のスポーツ、あるいは

は文化芸術活動の振興の点で書かれていますが、私の言ったことと違っているような感じがします。ですから、「④子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」の中で、スポーツあるいは文化芸術などの学びという形でも入れていただきたいです。高齢者も、このようなことに重点を置くことは非常に大切だと思いますが、もっと子どもたち、若者の観点で入れていただきたいと思いました。

会長 そうしますと、11ページで表現するのであれば、「(iii) 生涯スポーツの健康づくりや地域における文化芸術活動の振興」は、「④子どもから高齢者まで「学ぶ」機会づくり」の方がウエイトとしては適切ではないかということですね。

委員 はい。

会長 わかりました。もちろん、どちらに入っても良いものですが、カバーする範囲を考えると生涯スポーツの項目は④のところに入れていただきたいと思います。

もう1点は、13ページの「③暮らしの安全と安心を守る」の「(i) 市民の防災意識の向上を図る」についてです。表現としては、もっと地域の支えあいのようなことで考えたら良いですか。

委員 そうですね。その部分をしっかり入れていただきたいです。

会長 地域の支え合いですね。先ほどから言っている、活力ある市民が中心にというようなトーンが提言書の中にあるので、そう考えると地域における支え合いをもう少し具体的に表現した方が良いということで、書き換えるようにいたします。ご意見ありがとうございます。

今、ご意見をいただいたように、部会ときは、自分はこのようなニュアンスで言ったが違う位置づけになっている、などありましたら、最終になりますので、ご意見をいただければと思います。他はいかがですか。

委員 8、9ページの将来の推計人口で、9ページは平成と西暦を書いています。8ページは平成だけです。併記にしてはどうでしょうか。

会長 併記にさせていただきますと思います。

文言のことも含めてご意見をいただけると嬉しいです。

委員 15ページの「6おわりに」の部分で、「周知の「常識」です。」とありますが、何かおかしいような気がします。他に文言があれば、それに変えた方が良くと思います。読んだときの印象が。

会長 書き手の意識と読み手の意識に若干ずれが出てきます。なるべく多くの人に見ていただき、何か引っ掛かるというものは、直したいと思えますし、逆にここはこの表現でなければならぬというところがあ

れば、こういった考えであるからといったことが分かるように表現したいと思います。ありがとうございます。いかがでしょうか。

委員 「常識」の部分は、私も気になっていました。そして、11ページの「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」の「(ii) これまでの経験と知恵を地域で生かす」の「これまでの」という表現はいかがなものかと思えます。例えば、「豊富な経験と知恵を地域で生かす」の表現の方が项目的には良いのかなと思えました。

また、10ページの、「(1) 高齢者の増加による生涯現役社会へ」の最後の行で、「高齢者の定義を見直すとともに、新たな制度設計が求められます。」とあります。高齢者の定義を見直すということは、赤穂市単独でどうのこうのという議論ではないかと思えますし、今は人生100年時代と13ページの介護予防のところにも書いてありますが、例えば、「人生100年時代を見据えた新たな制度設計が求められます。」という表現の方が良いのではないかと思えました。

それから、1ページの3段落目で、「未来創造委員会は、関西福祉大学をはじめ、」とありますが、学識経験者として関西福祉大学から4名の先生が委員ですが、これは設置要綱にありましたように、「学識経験者」ということで良いのではないかと思えます。以上です。

会長 ありがとうございます。1点目は、「常識」という表現に何人かの委員に引っ掛かりがあるということなので、文言を検討します。

2点目は、11ページの「②健康寿命を延ばし、元気な高齢者が活躍できる場をつくる」の「(ii) これまでの経験と知恵を地域で生かす」の「これまでの経験」を「豊富な経験」などの表現に。ここの漢字の「生かす」は活力の「活かす」なのでしょうか。確認しておきます。

3点目は、10ページの「(1) 高齢者の増加による生涯現役社会へ」の最後の行ですが、「高齢者の定義を見直す」とはどういうことですか。

事務局 今は65歳ですが、70歳にするとか、75歳にするということです。おっしゃる通り、赤穂市がすることではありませんが、一般的に国では高齢者の定義自体を見直すべきではないかと検討をされているという意味だったのですが、委員がおっしゃったような受け止め方をされる場合がございますので、改める方が良いと思います。

会長 そして、4点目、1ページの「関西福祉大学をはじめ、」のところですが、「関西福祉大学」としなくても結構です。

他はいかがでしょうか。

- 委員 12ページの「(i) 市民病院産婦人科における分娩の受入再開」で、「平成29年9月より、産婦人科常勤医師が1人となったことにより、産科診療、分娩の休止状態が続いております。」とあります。「産婦人科常勤医師が1人となったことにより」ということであれば、今も1人いるのではないかと捉えられます。平成30年1月から常勤医師が1人もいませんので、この表現はどうかと思います。
- 会長 事実と異なることが記載されているのは、適切ではないですし、今の状態の方がより深刻な状態ですので、あくまでこの提言書に書くのは、今の事実にも基づいて表記していただく必要がありますので、ご指摘していただいたところを修正していきたいと思います。ありがとうございます。
- 委員 これまでの部会の意見を的確にまとめたつもりではありますが、十分に表現できていないこと、漏れということもありますので、ご指摘いただければと思います。
- 委員 12ページの「(ii) 出産から子育てまでの切れ目のない支援」のところで、主に表記が「母親」ですが、これは大丈夫なのでしょうか。父子の方もいらっしゃいます。問題がないのであれば、このままで良いと思いますが、私もその辺が分かりません。
- 会長 例えば、社会福祉の中で児童福祉論というものがありました。表記としては、「児童家庭福祉」というように、児童と家庭を一体として考えることになっています。これに関しても、出産から子育てということが、もちろんお母さんの問題もありますが、「家庭」という表現の方が適切なのか、大学の児童福祉論の教員等に、この表現自体が適切か確認したいと思います。確かに今、児童というより児童家庭、母親だけでなく父子家庭もありますし、ひとり親家庭と表現が変わって来ています。そのことを踏まえて、より適切な表現にしたいと思います。ありがとうございます。
- 委員 他はいかがでしょうか。
- 委員一同 (なし)
- 会長 本当にたくさんの貴重な意見をいただきまして、ありがとうございました。以上の内容を踏まえまして、委員会としてとりまとめさせていただきます。本日の委員会としてもとりまとめ、また提言書の調整について、会長である私に一任していただけますでしょうか。
- 委員一同 (拍手)
- 会長 ありがとうございます。そのようにいたしまして、今日いただいた貴重な意見がよりの確に表現できるようにしたいと思います。

(4) その他

会長 それでは、次第4、その他につきまして、事務局から何かありますでしょうか。

事務局 本日も協議いただきました提言書につきましては、今後、日程調整の上、会長から市長に報告させていただきます。

 また、本日の会議をもちまして赤穂未来創造委員会は終了ということになります。来年度からは本格的な総合計画の策定作業に入りますので、その中で、市民アンケートや審議会といった市民参画の場が予定されております。皆様には今後ともお世話になるかと存じますが、どうぞよろしくお願ひいたします。以上です。

会長 委員の皆さんから何かございませんか。

委員 (「兵庫の何でも150」についてのお知らせ)

会長 他に何かございませんか。

委員 (なし)

会長 なければ、最後に事務局からお願いいたします。

事務局 失礼します。市長公室長の磯家でございます。

 赤穂未来創造委員会の最後にあたりまして、委員の皆様へ一言お礼申し上げます。

 中村会長をはじめ、委員の皆様には、昨年8月以来、赤穂市の将来に向けてのご提案や部会での熱心なご協議をいただきまして、ありがとうございました。

 本日もいただきましたご意見によりまして、提言書を取りまとめたいと思います。本当にありがとうございました。

 また、来年度からは、総合計画の改定におきまして、この委員会でいただきましたご提案に込められております皆様の思いを十分に留意いたしまして取り組んでまいりたいと思います。

 最後になりますが、委員の皆様には、今後ますますそれぞれの分野でご活躍いただきますとともに、今後とも忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願いいたしまして、あいさつとさせていただきます。

 長い間、本当にありがとうございました。

会長 ありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで終了いたします。

 お疲れ様でした。

(5) 閉会